GEODYN II

- NASA/Goddard Space Flight Centerが開発。
- 旧GEODYNをデザインし直して1985年以来運用中。
- ・衛星軌道予測、衛星軌道決定、測地パラメータ (重力場係数、観測局位置等)推定に多くの実績 アリ。
- •「かぐや」の月重力場モデルもGEODYN IIを使って開発された。
- 今回は、衛星軌道予測および衛星軌道決定を 体験する。

GEODYN II

- GEODYN IISとGEODYN IIEの二つのプログラムから成る。
- IISは主にファイルの入出力に関する処理(I/O intensive)、IIEは主に計算処理(CPU intensive)を行う。
- IISは、観測値、地球回転パラメータ、天体暦、重力場モデル、solar flux、入力カード等を読み、データをIIEが読める形に整理して中間ファイルに書き出す。
- カードによってコントロールパラメータを指定。カードの 集まりのことをinput deckと呼ぶ。GEODYN IIの高い汎 用性を反映して、カードの内容は多岐にわたる。

GEODYN II

- カードによって指定できるものの例:
 - ・衛星の質量、有効断面積、初期軌道要素。
 - •観測局座標。
 - ・重力場モデル、大気抵抗モデルの定義、あるいはその見 積もりの要求
 - ・極運動、固体潮汐、海洋潮汐、プレート運動等、観測方程 式に関連するパラメータの指定あるいはその見積もりの要求。
 - ・観測の補正値に関する情報。観測データの取捨選択。
 - •積分時間ステップ、初期軌道要素の初期共分散。
 - ・シミュレーションデータ作成の要求。
- IIEは、IISが出力した中間ファイルを読み、軌道の時間積分、衛星に働く力の計算、座標変換、観測のモデリング等を行う。

ridasへの接続

- GEODYN IIは国立天文台とNASAとの間の共同研究の枠組みで利用している。持ち出し不可。
- 天文台の計算機(ridas)にログインして使用する。ただし、ridas はファイヤーウォールの内側にあるので、webサーバをゲート ウェイとして使う。
- Linux、Macの場合。ターミナルを一つ開いて
- % ssh -L 9000:ridas.miz.nao.ac.jp:22 web.miz.nao.ac.jp -l school5 このターミナルはログインしたままにしておく。

もう一つ別のターミナルを開いて

% ssh -p 9000 -x school5@localhost

(パスワードは当日お知らせします)

ridasへの接続

- ○Windowsの場合。
- PortForwarderをダウンロード。
 http://toh.fuji-climb.org/pf/download/PortForwarder-2.9.0.zip
- 解凍する。
- 以下の内容を記述した config.txt というファイルを作成。

```
Host ridas
HostName web.miz.nao.ac.jp
User school5
```

LocalForward 9000 ridas.miz.nao.ac.jp:5901

- PortForwarder.exe を起動し、config.txt を Config file として読み込む。
- Connect をクリック。パスワードを入力し、web.miz.nao.ac.jpへ接続。
- 以下のサイトから UltraVNC をダウンロードしてインストール。インストールするのは viewer のみで構わない。
 - http://www.uvnc.com/downloads/ultravnc/95-downlaod-10961.html
- vncviewer.exe を起動する。VNC Server のところに localhost:9000 と入力し、Connect をクリック。school 5 のユーザー名でログイン。

(パスワードは当日お知らせします)

ログインしたら

- /home/schools がホームディレクトリです。
- ホームディレクトリの下に自分の名前の作業ディレクトリを作ります。
- 例:小池さんの場合% mkdir koike
- 今後の計算は、自分の作業ディレクトリ (例:/home/schools/koike) の下で行います。
- 他の人の作業ディレクトリに行って間違ってファイルを削除したりしないように注意。

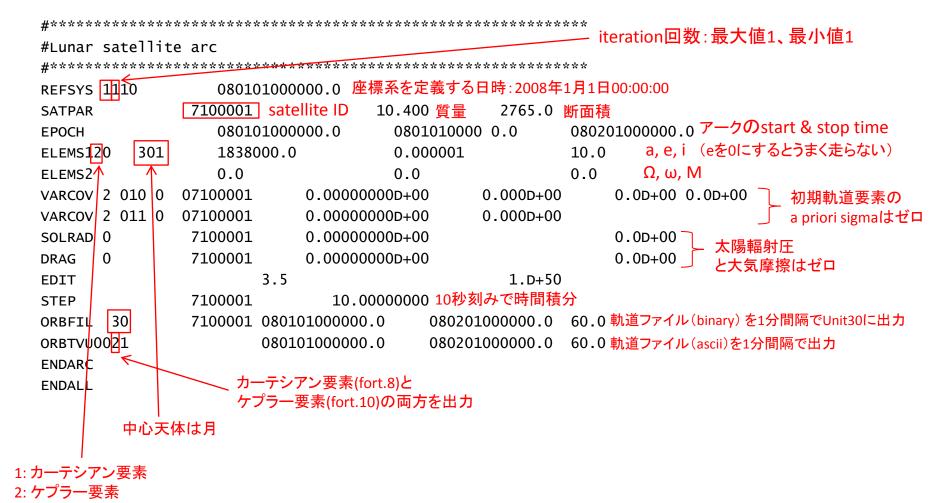
例0:軌道生成

- 月重力場の球状成分のみを考慮。太陽や他の惑星の重力を無視。太陽輻射圧もゼロとする。
- 高度100km、軌道傾斜角10°のほぼ円軌道。
- ORBITG(orbit generationの意)というディレクトリを作成。
- % mkdir ORBITG
- スクリプトをコピーする。
- % cp /home/school5/matumoto/ORBITG/ORBITG_* .
- スクリプトを眺めてみる
- % less ORBITG_0

```
抜粋
           = /home/school5/bin/qiis0812p2.exe
                                               GEODYN IISの実行ファイル
set IIS
           = /home/school5/bin/qiie0812p2.exe
set IIE
                                               GEODYN IIEの実行ファイル
           = /home/school5/etc/ephem421.data
set EPHEM
                                               JPL暦ファイルDE421
           = /home/school5/etc/qdntable.data
set BIH
                                               原子時とUT1との差、flux、極運動(GEODYN Table)
           = /home/school5/etc/zero.GCOEFCS
set GRAV
                                               重力場係数のファイル(これはゼロ埋めファイル)
set G2T
           = /home/school5/bin/g2tinertial_sander
                                               binary軌道ファイルをdumpするプログラム
set OUTCUT
           = /home/school5/bin/outcut
                                               軌道要素の時系列ファイルを整形するプログラム
           = 01.ftn05
set PARAM
#
#
if (-e $MainDIR) then
  ¥rm -rf $MainDIR
  echo $MainDIR removed and recreated
endif
mkdir $MainDIR
cd $MainDIR
                            result ORBITG 0 というディレクトリを作ってそこへ移動。
#
             _____
# Create setup file GEODYN II
                            GEODYN IIカードの集まり(input deckやsetupと呼ばれる)の書き出し
cat << PARAMEND1 >! $PARAM
```

```
重力場係数
# ----< GEODYN II orbit generation run >----
# Gravity Model = SGM100i
                                                                       degree, order
#23456789*123456789*123456789*123456789*123456789*123456789*123456789*123456789*
                                                                       それぞれ100
I32G2E 0
                                                                       まで考慮。
            200
EPHEM
                    299792458.0
                                     299792458.0
VLIGHT
VECOPT2 20
                         0.70000000D+08
                                                              90000.0
                                                     水星
        0100
                    2.4390000D+06
PLANET
                                                     金星
        0200
                    0.0000000000000D+00
                                       6.0520000D+06
PLANET
                                                     地球
        0300
                    0.000000000000000+00
                                       6.3781370D+06
PLANET
                                                     月(301)
        0301100100
PLANET02
                   10.49028011057653D+13
                                       0.1738000D+07
                                                     火星
                                       3.3970000D+06
                                                               のGMと半径。
        0400
                    0.00000000000000000+00
PLANET
                                                     木星
        0500
                    0.00000000000D+00
                                       7.1398000D+07
PLANET
                                                                月以外はGM=0とした。
                                                     土星
        0600
                    0.00000000000D+00
                                       6.0411280D+07
PLANET
                                                     天皇星
        0700
                    2.540000D+07
PLANET
                                                     海王星
PLANET
        0800
                    2.430000D+07
                                                     冥王星
        0900
                    PLANET
                                                     太陽
        9999
                    6.960000D+08
PLANET
TIDES 20
                    0.0
                                          0.000D+00
                    0.0
                                          0.000D+00
TIDES 21
                                                        月の潮汐はゼロ
TIDES 30
                    0.0
                                          0.000D+00
                    0.6090
H2LOVE
                             地球の潮汐(観測局の変位に関連)
                    0.0852
L2LOVE
REL300
PUNCH
     1
REFRAC 00011
OBSVU 3
PRNTVU
                  1
        2
            1
TERMVU
       22
         100
TOLS
ENDGLB
      11
```

グローバルセクション:アークに依存しないグローバルパラメータの設定



アークセクション:アークパラメータの設定

それぞれのカードは、数字を書く位置(カラム)が決まっていることに注意。 例えば、satellite IDは18-24カラムに、軌道要素は21-40、41-60、61-80カラムにそれぞれ書かねばならない。

```
#
# Run GEODYN II
ln -s $EPHEM ftn01
                      暦は Unit 1に
ln -s $BIH
            ftn02
                      GEODYN Table は Unit 2に
                                              決まり事
                      重力場ファイルは Unit 12に
ln -s $GRAV ftn12
      $PARAM ftn05
                      Input Deck は Unit 5に
ср
                            IISを走らせる。
( $IIS >! iisout ) >&! iiserr
mv ftn41 giie.ft12
mv ftn11 giie.ft11
rm -f ftn*
                     中間ファイルをrename
mv giie.ft11 ftn11
mv giie.ft12 ftn12
( $IIE >! iieout ) >&! iieerr
                            IIEを走らせる。
#
# Create trajectory file
                             binary軌道情報をasciiに。
$G2T fort.30 trj.xyz
$OUTCUT fort.8 sat.car
                             軌道要素の時系列ファイルを整形。
$OUTCUT fort.10 sat.kep
```

例0:軌道生成

- スクリプトを走らせる。% ORBITG_0
- 結果は result_ORBITG_0 にある。
- iiserr、iieerrのファイルサイズが0であれば問題なく計算 は終了している。
- sat.carはカーテシアン要素(&緯度、経度、高度)sat.kepはケプラー要素
- gnuplotで時系列を表示して遊んでみる。

```
gnuplot> set xdata time
gnuplot> set timefmt "%y%m%d %H:%M:%S"
gnuplot> set xrange ["080101 00:00:00":"080101 04:00:00"]
gnuplot> plot 'sat.car' us 1:3 w l
gnuplot> plot 'sat.car' us 1:4 w l
```

例1: 軌道生成

• 惑星のGM、月の潮汐、太陽輻射圧を考慮。

```
グローバルセクション
          0100
                        2.20420804937469D+13 2.4390000D+06
PI ANFT
          0200
                        3.24858707526359D+14 6.0520000D+06
PI ANFT
          0300
                        3.98600434494882D+14
                                               6.37813700+06
PI ANFT
          0301100100
                       10.49028011057653D+13
                                               0.1738000D+07
PLANFT02
          0400
                        4.28283579647735D+13
                                               3.3970000D+06
PI ANFT
          0500
                        1.26712767903558F+17
                                               7.1398000D+07
PI ANFT
          0600
                        3.79406260748394F+16
                                               6.0411280D+07
PI ANFT
PI ANFT
          0700
                        5.79455912949934F+15
                                               2.540000D+07
          0800
                        6.83653406634824F+15
                                               2.4300000D+07
PI ANFT
          0900
                        9.83055111718998F+11
PI ANFT
                        1.32712440065915E+20
          9999
                                               6.960000D+08
PLANET
TIDES 20
                        0.0255
                                                   0.000D+00
```

アークセクション

SOLRAD 0 7100001

0.12000000D+01

例1: 軌道生成

- ORBITG_1を走らせる。
- 計算結果は result_ORBITG_1 にある。
- 例0と例1の軌道を比較。
- % differ_check result_ORBITG_0/trj.xyz result_ORBITG_1/trj.xyz differ.out :ケプラー要素の差 differ_rac.out :radial, along-track, cross-track, totalの差。
- ・ 1日でどのくらいの位置の違いが出るか?

例2:軌道生成

• 現実的な月重力場非球状成分を考慮。

```
set GRAV = /home/school5/etc/SGM100i.GCOEFCS SGM100i:「かぐや」重力場モデルの一つ。
```

参考文献 Goossens et al, Lunar gravity field determination using SELENE same-beam differential VLBI tracking data, J. Geod., 85, 205-228, doi:10.1007/s00190-010-0430-2

- ORBITG_2 を走らせる。
- 計算結果は result_ORBITG_2 にある。
- iieerrのファイルサイズはゼロか?
- 何が起きたか、iieoutやsat.carを見て確かめよう。
- 軌道の一部をGMTでプロットしてみよう。 /home/school5/matumoto/gmt/trj.gmt を使ってもよい。

例3:軌道生成

・ 月重力場モデルの10次までの係数のみを考慮。

- ORBITG_3 を走らせる。
- 計算結果は result_ORBITG_3 にある。
- 100次までの係数で計算した結果(例2)との違いを見てみよう。 sat.carの比較。
 - % differ_check result_ORBITG_2/trj.xyz result_ORBITG_3/trj.xyz
- 重力場係数の低次項の影響について考察しよう。

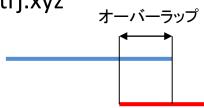
例4,5: 軌道生成(Lunar Prospector)

• グローバルセクションはORBITG_2と同じ。アークセクションが異なる。

```
REFSYS 1110 980727160000.00000000 187.000
SATPAR 9601101 2.00000000 187.000
EPOCH 980727160000.000000 980727160000.000000 980730000000.0000000
ELEMS110 301 0.17223253459113D+070.44445387423103D+06-.49152226904951D+06
ELEMS2 -.41515163813234D+03-.13425265676379D+03-.15671716937558D+04
カーテシアン要素を指定。ELEMS1: X, Y, Z
ELEMS2: Vx, Vy, Vz
```

- 1998/07/27 16:00:00 ~ 1998/07/30 00:00:00 (ORBITG_4) ≥ 1998/07/29 00:00:00 ~ 1998/07/31 00:00:00 (ORBITG_5)。
- fort.10かsat.kepを見て、どのような軌道であるか確かめよう。 (ORBITG_[1-3]で計算したものとは異なる軌道)
- オーバーラップ期間(7/29 00:00:00 ~ 7/30 00:00:00)の軌道の差を見てみる。

% differ_check result_ORBITG_4/trj.xyz result_ORBITG_5/trj.xyz



例6,7: 軌道決定(Lunar Prospector)

- 実際の観測データを用いて軌道決定をしてみる。
- 作業ディレクトリに戻ってORBITD(orbit determinationの意)というディレクトリを作成。
 - % mkdir ORBITD
- スクリプト と input deck をコピーする。
 - % cd ORBITD
 - % cp /home/school5/matumoto/ORBITD/ORBITD_* .
 - % cp /home/school5/matumoto/ORBITD/giis.in* .
- スクリプトとinput deckを眺めてみる。orbit generationと 異なる部分がある。

スクリプト

set DATA = /home/school5/etc/FORT.40.LP.1998.JULY.ramp 観測データ

1n -s \$DATA ftn40 観測データはUnit40に。決まり事。

input deck

グローバルセクション

OLOAD 海洋潮汐荷重に関連するカード

POLTID 極潮汐に関連するカード

STAPOS - ENDSTA 衛星追跡局に関連するカード

アークセクション

REFSYS 1821 9807271600 0.0000000 iteration 回数:最大18、最少2

VARCOV 1 10 9601101 0.10000000D+32 0.100D+32 0.1D+320.10D+32

VARCOV 1 11 9601101 0.1000000D+32 0.100D+32

MBIAS観測バイアスに関連するカードRESIDU残差を出力する(fort.19)

DATA 観測データを読む(このカードが無い場合がorbit generation mode)

SELECT 観測の選択

SIGMA 選択した観測の重み

DELETE 観測値の削除

初期軌道要素を拘束しない。GEODYN IIは、a priori sigmaがゼロでないパラメータを推定しようとする。

例6,7: 軌道決定(Lunar Prospector)

- オーバーラップ期間(7/29 00:00:00 ~ 7/30 00:00:00)の軌道の差 を見てみる。
- % differ_check result_ORBITD_1/trj.xyz result_ORBITD_2/trj.xyz
- 軌道生成(予測)の場合と比べて、オーバーラップ差はどうなったか?